

# 第2回 防災活動事例発表会 プログラム

## 1. 日 時

平成25年12月8日(日) 14時00分～17時00分

## 2. 会 場

長岡市千歳 長岡市消防本部 4階大会議室

開会の挨拶 中越市民防災安全士会 会長 畔上 純一郎

### 【第一部】雪害対策事例発表会 14:00～15:30

1. 希望が丘2丁目団地町内会 会長 矢尻 昭仁 様
2. 鉢伏1丁目自主防災会ボラ・サポ 防災部長 神保 道雄 様
3. 蓬平町除雪機運営委員会 蓬平地区民生委員 中村 多計司 様
4. 小国町八王子雪堀隊 代表 安澤 徹 様  
副代表 相馬 聖一 様

### ☆アドバイザー

- ・独立行政法人 防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター  
センター長 上石 勲 様
- ・長岡市危機管理防災本部 特命主幹 中村 英樹 様
- ・社会福祉法人 長岡市社会福祉協議会  
地域福祉課長 本間 和也 様
- ・公益社団法人 中越防災安全推進機構  
地域防災力センター長 諸橋 和行 様

### 【第二部】雪害対応についての意見交換会 15:30～17:00

1. 雪害対応についての情報発信・・・関係機関、担当部門
2. 雪害対応について意見交換会

### ☆討論参加者

- 第一部 ■事例発表者 4名  
事例発表アドバイザー 4名

閉会の挨拶 中越市民防災安全士会 副会長 柘澤 政晴

《主催》 ・中越市民防災安全士会 ・(公社)中越防災安全推進機構  
・長岡市危機管理防災本部

《共催》 ・(社福)長岡市社会福祉協議会

アンケートの協力をお願い

H25年12月8日事例発表レジメ				
発表テーマ	団地内駐車場の除雪			
発表団体名	希望が丘2丁目団地町内会		発表者名	矢尻 昭仁
			役職	町内会長
地域情報	発足年月	2000年 12月	活動人数	人 (業者委託)
	世帯数	250世帯	住民数	350人
1-1. 背景ならびに活動の動機 (キッカケ)				
<p>今までは自分の車の周り、車の通りを自分でスノーダンプなどで除雪していたが、各世帯で車を2台持てるようになり、人力ではなかなか除雪が追い付かず、機械を導入することになった (ブルトーザー)。</p>				
1-2. 主な活動状況と特徴 (途中での問題対応や失敗を含む)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は団地住人の方が有償ボランティアとして、朝7時頃までには終わるように行っていただいた。</li> <li>・6年前から役員の知り合いに頼んで除雪を行っていたが、1年で役員が交代するため、次の役員に知り合いなどがいなく、頼めないため、2009年(4年前)から業者に委託して行ってもらうようにした。</li> <li>・除雪車を導入する前は、除雪をする人はよくするが、しない人はしない。そのため、車の出入りがままならない時もあったが、除雪車を導入後は、車の出入りが<u>スムーズ</u>になった。</li> </ul>				
2. 活動の成果				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝、積雪があっても、除雪車が車の通路を確保してくれるので、車の上や周りの雪をのければ車を出せることでずいぶん楽になった。</li> <li>・市の除雪車が道路を除雪していくと、道の脇には雪の<u>かたまり</u>を置いていくが、団地の除雪車で各駐車場の入口、集会場、ゴミ置き場の前のかたまりを取り除くことができた。</li> </ul>				
3. 今後の課題や方針				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、除雪車を購入してから10年以上たつが、今のものが使えなくなったらどうするのか。業者から持ち込みにするのか、レンタルで借りるのか。</li> <li>・現在の駐車場料金を値上げしなくてはいけないのか？</li> </ul>				

# 団地通路の除雪



# 団地内駐車場の除雪



H25年12月8日事例発表レジメ					
発表テーマ	山里の豪雪地に安全を与えて				
発表団体名	長岡市蓬平町除雪機運営委員会			発表者名	中村 多計司
				役職	
地域情報	発足年月	2012年12月		活動人数	6人 業者委託なし
	世帯数	80世帯		住民数	120人
1-1. 背景ならびに活動の動機（キッカケ）					
・蓬平町内の地理・自然条件と町内の現状					
長岡の奥座敷・蓬平温泉 高龍神社がある山間の80世帯の町内、積雪が					
約4メートル積もる豪雪					
中越大震災における、若年者の離町で急激な過疎と極少子高齢化					
町内の維持と町内の管理の道やゴミ集積施設等公共施設の維持が困難					
特に冬期間の管理が困難、高齢者が除雪に困難					
・長岡市からの除雪機貸与					
町内として長年要望、2012年12月に市から大型除雪機を貸与される。					
1-2. 主な活動状況と特徴（途中での問題対応や失敗を含む）					
・除雪機の取扱い要領と作成と講習・除雪体制の確立					
初年度のため、ゴミ集積施設等公共施設を中心に除雪を行うとともに、高齢者等を					
中心に生活道路の確保を行う。					
・除雪機作業の問題点					
オペレーターの確保が困難（大型機操作、オペレーターの勤め等）、地形が悪く					
操作困難、危険性、積雪量が多いと作業時間が読めない。					
2. 活動の成果					
ゴミだしがスムーズに出来た。集会所の会館や高齢者の生活道路の改善がされた。					
3. 今後の課題や方針					
・オペレーターの増員や操作技術の講習を積極的に進め、除雪機の安全運転を高めて					
いきたい。					
・除雪体制の強化を進めて、班の再編成を図り、1班2名、3班を構築するとともに、					
除雪作業の効率化と安全性を高める。					

## 平成25年の蓬平町除雪機の利用状況



ゴミステーション前の除雪



高齢者の生活道路の除雪



集落センターの除雪



町内倉庫前の除雪



生活道路の除雪



町内鎮守様の除雪

## H25年12月8日 事例発表レジメ

発表テーマ	八王子・芝ノ又集落の除雪支援活動について			
発表団体名	八王子雪堀隊		発表者名	安澤 徹・相馬 聖一
			役職	代表・副代表（事務局）
地域情報	発足年月	2007年12月	活動人数	13人
	世帯数	31世帯	住民数	70人
1-1. 背景ならびに活動の動機（キッカケ）				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の世帯及び人口の減少、高齢化による除雪の担い手不足、自力での除雪困難者の増加。</li> <li>・大雪時には、建設業者やシルバー人材センターなど地元業者だけでは対応できない。</li> <li>・平成18年に地元出身者でつくる東京八王子会に現状を相談し寄付金を頂くことができた。</li> <li>・上記を踏まえて、寄付金を原資に地域の安全安心を確保するため雪堀隊の結成に至った。</li> </ul>				
1-2. 主な活動状況と特徴（途中での問題対応や失敗を含む）				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・除雪支援対象：要援護者世帯、公共施設、一般世帯、その他目的達成のための支援</li> <li>・除雪支援内容：屋根雪除雪、小型ロータリー除雪機による除雪、パワーショベルによる除雪</li> <li>・営利を目的としない有償活動である。</li> <li>・平成21～22年にパワーショベルをリースし排雪作業を行うが負担が大きく会計を圧迫したため、22年から復興基金を活用した集落デザインに着手し24年にパワーショベルを購入。</li> <li>・平成21年～社協の協力により除雪ボランティア「スコープ」を受け入れ、雪堀隊と連携した活動を行う。他に長岡技大など学生ボランティアの受入れも行う。</li> <li>・平成24年規約改正：隊員の処遇改善（除雪単価の値上げ）、組織の見直し、責任の明確化（除雪作業2,000円/h、小型ロータリー除雪機付2,500～3,000円/h、パワーショベル5,000円/hなど）</li> <li>・平成23年 豪雪対策ワークショップの開催（国土交通省国土技術政策総合研究所） 冬季地域防災力強化に向けて住民による検討及び実践、AED講習、命綱講習etc</li> </ul>				
2. 活動の成果				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・豪雪時、自力除雪困難世帯等へ迅速な対応が取れる。</li> <li>・共助の意識が育まれ、除雪のみならず地域の一体感が生まれつつある。</li> <li>・自助、共助の力が弱まるなか外部ボランティアの受入れを行い、リーダーや地域のファンが増加した。</li> <li>・社協で除雪資機材を整備したため、自己購入せずに除雪用具の借り入れが容易になった。</li> <li>・ワークショップでは、他地域に比し既に支援の組織化、ボランティアの受入れ等の実践に対する評価。</li> </ul>				
3. 今後の課題や方針				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の集落は自分で守ると活動してきたが、集落だけでは維持できない時期に来ている。</li> <li>・隊員の高齢化、若い隊員の離村等で、今後の隊員確保が難しくなる。</li> <li>・基金の枯渇、集落だけでは財政的負担に耐えられなくなる。補助事業はないか？</li> <li>・地域間の連携（機械の貸し借り、隊員の応援体制など）が今後必要になる。</li> <li>・降雪状況などに合わせてタイミング良く除雪ボランティアの受入れをする。</li> <li>・地域間連携やボランティアの受入れを行うことにより、除雪だけでなく年間を通した支援や交流につなげ地域の活性化を図りたい。</li> </ul>				